

*****ライオンズクラブのことを地域の人に知ってもらう為に*****

報徳精神と時空を越えて共通するライオニズム

私たちのライオンズクラブは二宮尊徳終焉の地今市です、その二宮尊徳の報徳精神についてよく語られますがライオンズの精神と非常に似ています

『至誠』まことを尽くし実行すること。

『勤労』天道・人道論の人道、手を加え自分たちの利益の為になすこと、人道は作為的なものですから放置すれば自然に廃れてしまいます、これに歯止めをかけ人道を保持するのが勤労。

『分度』至誠と勤労をもって収入を増やし、これに見合った支出をする。しかし贅沢や無駄は戒めるので収入過多となる。

『推譲』分度を確立した上で収入の一部を社会のために譲る、それで社会が豊かになれば自分に還元される。



J R 下野大沢駅前公園にある
二宮尊徳翁像

この精神は1917年(大正6年)にアメリカで誕生したライオンズクラブの奉仕の精神そのものです。我々のライオンズクラブにはみなさんが自覚しているとおり、金と暇を持って余す人は一人もおりません。それぞれが仕事と生活に懸命な努力をしている人ばかりです。そうした中から、わずかでも無駄を省き各自の時間と労力をさいて、不幸な人々を助け、地域社会作りに精進する努力が、ライオンズクラブの『奉仕』そのものだと思います、ライオンズクラブのアクティビティが各種福祉機関への金品の援助にとどまらず、会員自らが額に汗しているいろいろな奉仕に努力する姿こそ、まさに報徳精神そのものであると思います。二宮尊徳は1823年栃木県に来県し、1856年70歳で亡くなる迄今市で報徳精神を説いたと言われていますが、その約60年後のライオンズクラブの誕生ですから、まさに時空を越えた共通精神と言えると思います。これからも自信と誇りを持って活動したいものです。